

レジメンcode:	C16-36
適応がん種:	胃癌
レジメン名:	Zolbetuximab+sLV5-FU2
間隔:	2週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ	400	mg/m ²	点滴[*1]	d1
I-LV	レボホリナート	200	mg/m ²	点滴(2時間)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	400	mg/m ²	点滴(全開)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	2400	mg/m ²	点滴(46時間)	d1

*臨床試験では、オキサリプラチンの投与は **最大12回まで** とされ、その後 C16-36:Zolbetuximab+sLV5-FU2 を疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

***オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)**となるため、あらかじめ処方が必要です

*入院化療時、恶心嘔吐出現時の メトクロプラミド注 1A の医師指示が必要です

[内服]

day0~4(5日間)

1) オランザピン	5 mg/日
内服 夕食後 ビロイ投与前日から服用	

* 糖尿病禁忌

day2~4

1) デカドロン	8 mg/日
内服 朝食後	

[注射]

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	20ml	1 A	ポート確認
2) アロカリス	235mg	1 V	
ファモチジン	20mg	1 A	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
パロノセトロン	0.75mg	1 V	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	30分
3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15 分

4) 生食	100ml	1 本	
	►側管①	点滴	ビロイを中断した場合のルートキープ用
5) ビロイ		400 mg/m ²	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml	1 本	12時間以内に投与終了すること
生食	250ml	1 本	12時間を超えた場合は残液破棄 インラインフィルター必須
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照
6) 生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
7) レボホリナート		200 mg/m ²	
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間
8) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開
9) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	500ml	1 袋	
	主管⑦	点滴	46時間

⟨所要時間　— ⟩

day3

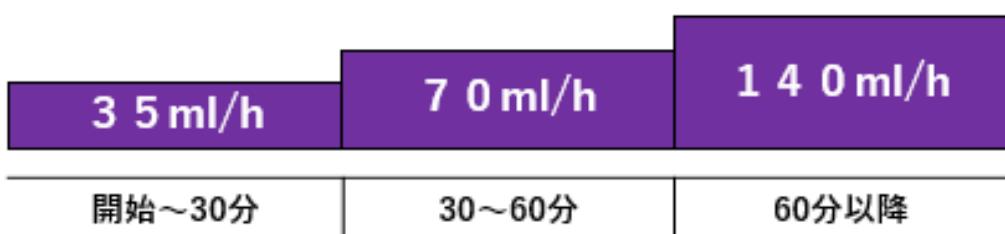
1) 生食	50ml	1 本	
			フラッシュ
2) 生食		10 ml	
			ルートロック

⟨所要時間　— ⟩

[*1]

悪心・嘔吐に対する投与速度のマネージメント

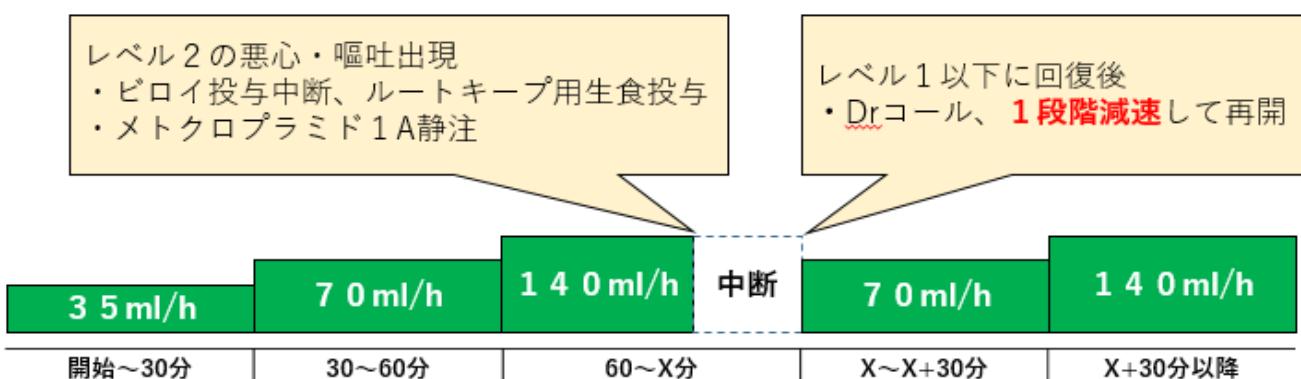
悪心・嘔吐 レベル1以下



* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ビロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開する。**

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(SPOTLIGHT試験) Lancet.2023;401(10389):1655–1668 (PMID:37068504)】

【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

【ビロイ】

*希釈後、室温で12時間以内に投与を完了すること。また2～8°Cで24時間以内に使用すること。
12時間を超えた場合は、残液を破棄すること。

*インラインフィルター(0.2 μm)を使用する。